

「第41回日本マイクロサージャリー学会学術集会」

会長 柿木 良介

近畿大学整形外科教授

■会 期

2014年12月4日(木)・5日(金)

技術講習会 12月6日(土)

■会 場

京都府民総合交流プラザ京都テルサ

■学会スローガン

伝承と創造

特別講演

「細胞治療と微小外科の融合」

戸口田 淳也 (京都大学再生医科学研究所組織再生
応用分野)

招待講演 1

「Surgical angiogenesis in orthopedic reconstruction: Role in revitalizing necrotic carpal bone and reconstruction of segmental bone loss」

Allen Bishop (Orthopedic Surgery, Mayo Clinic,
Collage of Medicine, Rochester Minnesota, USA)

招待講演 2

「More Unfortunate lesson from war: Current research on unsolved hand trauma problems」

James Chang (Plastic Surgery and Orthopedic
Surgery, Stanford University Medical Center,
Palo Alto California, USA)

招待講演 3

「Medial femoral condyle for scaphoid nonunion: The Mayo experience」

Alexander Shin (Department of orthopedic
Surgery, Mayo Clinic, Rochester Minnesota,
USA)

招待講演 4

「(1) Triple FFMT and CC7 with FFMT for patients with total avulsion brachial plexus injuries
(2) FFMT for lower extremity reconstruction」

Yuan-kun Tu (Orthopedic department, E-DA
Hospital/I-Shou University, Kaohsiung, Taiwan)

招待講演 5

「The economic costs and benefits of composite allograft services in the United States」

Scott FM Duncan (Department of Orthopedic
Surgery, Ochsner health system, New Orleans,
Louisiana, USA)

特別企画 1 私の思い出の手術

1. 「切断母指再接着, 切断陰茎再接着術」

玉井 進 (奈良手の外科研究所)

2. 「私の思い出の手術」

波利井清紀 (杏林大学医学部形成外科)

3. 「私の思い出の手術-遊離血管柄付き腓骨移植術」

上羽 康夫 (京都大学医療技術短期大学部)

4. 「海外で評価された私の思い出の手術」

山野 慶樹 (清恵会病院大阪外傷マイクロサ
ージャリーセンター)

5. 「私の思い出の手術」

生田 義和 (広島手外科, 微小外科研究所)

特別企画 2 「ビデオ演題・達人の手術」

1. 「Combining method による指爪再建」

平瀬 雄一 (四谷メディカルキューブ手外科マイ
クロサージャリーセンター)

2. 「マイクロサージャリーを用いた乳房再建」

矢野 健二 (大阪大学医学部形成外科)

3. 「神経交差縫合術」

土井 一輝 (小郡第一総合病院)

4. 「TAP flap SCIP flap」

光嶋 勲 (東京大学医学部形成外科)

5. 「血管柄付き腓骨移植術におけるドナー採取方法
のコツ」

矢島 弘嗣 (市立奈良病院四肢外傷センター)

教育講演

1. 「四肢再接着術入門」

野口 政隆 (第一リハビリテーション病院整形外
科)

2. 「手部重度損傷の治療」

坪川 直人 (新潟手の外科研究所)

3. 「末梢神経損傷の診断と治療」

三上 容司 (横浜労災病院運動器センター)

4. 「筋肉移植の基礎と実際」

服部 泰典 (小郡第一総合病院整形外科)



開会の挨拶



左から Mayo Clinic Alexander Shin 先生, 上羽康夫名誉教授, Mayo Clinic All en Bishop 先生, Stanford 大学 James Chang 先生と私

5. 「皮弁術 その基礎と応用」

田中 克巳 (長崎大学形成外科)

6. 「穿通枝皮弁の実際」

青 雅一 (岩国医療センター形成再建外科)

シンポジウム

1. 「リンパ浮腫治療におけるマイクロサージャリー」
2. 「重度四肢損傷治療の現状と課題」
3. 「良好な嚥下機能温存を目指した中咽頭・下咽頭再建」
4. 「高度神経損傷に対する戦略的治療計画」
5. 「指尖部損傷に対する治療方針 - 再建方法とその適応」

パネルディスカッション

1. 「血管柄付き骨移植：最適の固定法は？ - 早期リハ・治療期間・合併症の観点から」
2. 「Free flap による乳房再建」

ランチョンセミナー

1. 「神経再生誘導チューブ RNTC06 の有用性」
2. 「マイクロサージャリーによる顔面神経麻痺の治療」
3. 「信州大学でのリンパ管細静脈吻合術～始めよう, LVA」
4. 「皮弁壊死の予防と救済 - 基礎と臨床」
5. 「末梢神経損傷に対するマイクロサージャリー」

マイクロサージャリー技術講習会

実習責任者

松本 泰一 (倉敷中央病院整形外科部長)

講師

池口 良輔, 石河 利広, 太田 壮一, 貝澤 幸俊,
 齊藤 晋, 沢辺 一馬, 高山 和政, 田中 康之,
 津村 卓哉, 富山 貴司, 中山 憲, 成島 三長,
 野口 貴志, 藤田 俊史, 松本 泰一, 山本 博史,
 山脇 聖子, 吉川 勝宇

■学会印象記

この学会のスローガンを「伝承と創造」といたしました。マイクロサージャリーは、奈良医科大学玉井進名誉教授が1965年 はじめて母指再接着に成功され、それが遊離組織移植に進み、perforator flap、リンパ管縫合とたくさんの先生方によって伝承と創造が加えられて進歩してきました。まずはマイクロサージャリーの黎明期を支えられた先生方のお話を聞きたいと思い、特別企画1として「私の思い出の手術」を企画しました。玉井進先生、波利井清紀先生、上羽康夫先生、山野慶樹先生、生田義和先生より、これらのレジェンドと呼ばれる先生方がマイクロサージャリーを始められたころの記憶に残る症例についてご講演いただきました。また各レジェンドの先生方の座長には各先生のお弟子さんに当たる先生を割当てさせていただき、普段お聞きできない内輪話を交えたご講演を拝聴することができました。また特別企画2では、達人と呼ばれている先生方の手術のビデオをご提示いただき、各先生の創意、工夫をご講演いただきました。

特別講演では、私が腫瘍再建で大変ご指導いただいた京都大学再生医療研究所の戸口田淳也先生に「細胞治療」とそれをどう組織移植、マイクロサージャリーに絡めていくかの大変興味深いご講演をいただきました。招待講演では、私が留学でお世話になった米 国 Mayo Clinic の Allen Bishop 先生、Alexander Shin 先生、Free flap の勉強をさせていただいた台湾 E-DA Hospital の Yuan-kun Tu 先生、ASSH-JSSH traveling fellowship で知り合いになって、その後も仲良くさせていただいて、娘が home stay させていただくまでの関係の Stanford 大学の James Chang 先生、同じく AAOS traveling



学会スタッフと

fellow で京都大学を訪問され、知り合いになった大の親日家の友人 Scott Duncan 先生にご講演いただきました。教育講演では、若いマイクロサージャリーを志す先生方のために、その領域ではトップレベルの先生より優しく知識、技術の解説をしていただきました。シンポジウム、パネルディスカッションでは、多くの先生にマイクロサージャリーのホットな問題点をご討議いただきました。皆様のおかげで2日間で700人以上のご参加があり有意義な学会を開催できました。最終日は、マイクロサージャリーの技術講習会を開催し、若い先生方に多数ご参加いただきました。講師は、京都大学整形外科、形成外科、近畿大学整形外科の先生にお願いしました。講師陣も明日のマイクロサージャリーの育成のため、気合を入れて務めていただきました。

この原稿のために、久しぶりに第41回日本マイ

クロサージャリー学会学術集会の抄録集を読み返しました。ご講演いただいた先生の中にはすでにお亡くなりになった先生もおられ、今更ながら、それらの先生方が熱くご講演をされている生前のお姿が脳裏に浮かびました。この10年で整形外科領域では、血管柄付き腓骨移植が明らかに減った感があります。偽関節、特に感染性偽関節は即血管柄付き腓骨移植であったものが、ロッキングプレートの開発でそもそも偽関節が減り、マスカレ法、CLAP療法などにより骨髄炎の治療成績も向上しました。何かマイクロサージャリーとして寂しさを感じますが、これが医学の進歩かとも思いました。たった10年ですが、マイクロサージャリーも姿を変えているなど実感しました。これから10年後、マイクロサージャリーはどう変身していくか、興味深いところです。

(文責：柿木 良介)

「第42回日本マイクロサージャリー学会集会」

会長 朝戸 裕貴

獨協医科大学形成外科学教授

(現 獨協医科大学特任教授・名誉教授, 獨協医科大学埼玉医療センター形成外科)

第42回日本マイクロサージャリー学会学術集会は2015年11月26日、27日の2日間、さいたま新都心にある「ラフレさいたま」にて開催されました。マイクロサージャリー講習会は翌28日土曜日の開催でした。会期中は天候にも恵まれ、久しぶりに東京近郊での開催ということもあり、約700人の参加者で盛況のうちに終了することができました。開設後10年に満たない当科に開催をお任せいただき、多大なるご支援をいただいた諸先生方はじめ関係者の皆様にあらためて御礼を申し上げます。

昨今の学術集会ではテーマ(スローガン)を決めて演題募集を行うことがほとんどですが、第42回学術集会ではあえてスローガンを掲げず、昔ながらの研究会スタイルに近い、一般演題に重点を置いたプログラム構成を行いました。発表時間5分に対して討論時間3分という十分な時間配分を行い、いずれの会場も活発な議論が繰り広げられておりました。

外国人特別講演には私の古くからの友人を2名お招きいたしました。韓国のHee-Chan Ahn先生(Hanyang University Hospital)はお互い若手のこ

ろから国際学会で知り合った友人で、今回はIschemic Handの治療についてご講演いただき、私の先輩である中塚貴志先生(埼玉医科大学)に司会をお引き受けいただきました。もう1名の台湾からの招待者であるHaw-yen Chiu先生(National Cheng Kung University Hospital)は、私の師匠である波利井清紀先生(東京大学、杏林大学)のもとでマイクロサージャリーの修練のため留学されておりました。今回先生には切断指治療についてご講演をいただき、波利井先生の東京警察病院時代の後輩でもある中西秀樹先生(徳島大学)に司会の労をおとりいただきました。また2017年ソウルで開催された第9回WSRMに向けての日本・韓国・台湾によるEast-Asian Sessionを、Myong Chul Park先生(Ajou University Hospital)と金谷文則先生(琉球大学)の司会でプログラムに入れ、3カ国から2名ずつのパネリストにご登壇いただきました。他に特別プログラムとして2つのシンポジウム(「切断指再接着術成功の秘訣」「Free flapにおける血管吻合のコツ」)、3つのパネルディスカッション(「術後血栓に対する救済手術の実際」「感染創・開放創に対する遊離組織移植」「各種神経縫合法の臨床成績」)ではいずれも実臨床に基づいた発表が行われました。これらのシンポジウムおよびパネルディスカッションはすべて公募により発表者を選定させて



会長挨拶



波利井清紀先生(中央)Haw-yen Chiu先生(右)とともに



スタッフ一同集合写真

いただきました。会員の明日からの臨床に役立つセッションになったと考えております。

学術集会翌日は10数台の手術用顕微鏡を使用したマイクロサージャリーの技術講習会が開催されました。講師には東京大学形成外科同門をはじめとする若手先生方にご協力いただき、午前午後に分けて一対一でのシリコンチューブや鶏肉の血管を用いた吻合の実技指導が行われました。のちに行われたアンケート調査では、非常に有意義なワークショップ

であったと受講者からの評価をいただいております。

早いものでさいたま市での学術集会からすでに10年近く経ち、マイクロサージャリー学会も50周年を迎えました。その後学術集会も年々盛大に開催され、若手医師の参加も増えております。本学会の今後ますますの発展を祈念しております。

(文責：朝戸 裕貴)

第43回日本マイクロサージャリー学会学術集会

「極める - To be a master of microsurgery」

会長 砂川 融

広島大学大学院医歯薬保健学研究院上肢機能解析制御科学教授
(現 同大学院医系科学研究科)

■会期

2016年(平成28年)11月17日(木)～18日(金)

■会場

リーガロイヤルホテル広島

■特別プログラム

特別講演

「マイクロサージャリーの進歩と発展 - 過去と未来」
広島手の外科・微小外科研究所所長 生田 義和

文化講演

「火星に行きたい, 火星に住みたい」
広島大学大学院生物圏科学研究科教授 長沼 毅
招待講演

1. “Contemporary management of Mangled Extremities”
School of Medical University of Belgrade. Prof. Marco Bumbasirevic
2. “Treatment of scaphoid nonunion with vascularized graft: 2 decades of experimental work justifying microsurgical management”
Mayo Clinic. Prof. Allen T. Bishop

教育研修講演

1. 「顔面領域の腫瘍切除後の機能・形態の再建 - 顔面の輪郭と顔面神経麻痺の再建を中心に -」
東京医科歯科大学大学院形成・再建外科学分野教授 岡崎 睦
2. 「末梢神経麻痺再建術のピットフォール」
小郡第一総合病院院長 土井 一輝
3. 「成績不良例から学ぶ - モニタリング・救済法・感染症」
徳島大学大学院形成外科学教授 橋本 一郎
4. 「機能再建外科: 成績不良例から学ぶ」
名古屋大学手の外科学教授 平田 仁

■学会印象記

本会は生田義和広島大学名誉教授が第3回を開催されて以来、40年振りの広島での開催ということになりました。私は生田先生が主宰されて間もない

整形外科教室に、『マイクロサージャリー』という言葉の響きに憧れて入局し、以来、満30年の記念すべき年に本会を開催させていただくことができ、誠に感慨深いものがありました。

学会のテーマを「極める - To be a master of microsurgery」とさせていただきました。マイクロサージャリーの基本は技であり、そこから波及した考え方、アイデアであると考えます。私はこれまでmasterになるべく研鑽を積んできたつもりです。本会では、マイクロサージャリーのmasterをめざす若い先生方のお役に立てればと考え、新人賞、アイデア賞の募集・授与や全員懇親会を開催させていただきました。ポスターには広島出身で日本画家のmasterのお一人である平山郁夫画伯の「巖島神社」を使用させていただきました。

お陰様で300題をこえる演題をご登録いただき、特に新人賞、アイデア賞はいずれも60題をこえるご応募をいただきました。両賞につきましては主催者側で選択することはせず、すべての登録の先生方に各々のセッションでご発表いただき、発表ならびに抄録集を参考に参加の先生方にネット投票を依頼し、新人賞、アイデア賞各々2名を選出し、賞金と副賞として、ちょうど日米通算200勝を達成した広



新人賞・アイデア賞の表彰



生田義和先生による特別講演

島東洋カープ黒田博樹投手直筆サイン入りグッズを贈呈し、大変好評でした。

特別講演として生田先生に40年を振り返っていただくと同時に、マイクロサージャリーの今後の方向性についてお話しいただき、文化講演には「科学界のインディージョーンズ」として御高名な広島大学教授で生物学者・極地探検家の長沼毅先生から「火星に行きたい、火星に住みたい」というタイトルでご講演をいただき、参加者からは「マイクロの歴史から未来まで、そして火星の話まで聞けた」と非常に好評でした。海外ゲストとしては、アメリカから私のmentorの一人であるMayo ClinicのAllen Bishop先生とセルビアのmaster of microsurgeryであるBelgrade大学整形外科のMarco Bumbasirevic先生をご招待致しました。教育研修講演ではこれからの発展のため知っておかなくてはならないけれども日頃お聞きすることのできない、成績不良例についての御講演を4名のmasterの先生方に、その他文献レビューを2名の先生にお願いし、いずれも好評でした。フェニックスセミナーでは川崎医科大学検査診断学教授の畠二郎先生に超音波でみる微小循環のお話を、昭和大学江東豊洲病院心臓血管外科教授の山口裕己先生には「マイクロサージャリーと心臓血管外科医の接点」と題するお話を、奈良手の外科研究所の玉井進名誉会員からは「Microvascular Anastomosisの祖：



『けん玉』大会の様子

Prof. Julius Jacobson」と題するお話をいただき、いずれも非常に興味深いもので会場からは多くの質問が行われていました。シンポジウム、パネルディスカッションでは、masterへの道としてこれは押さえておくべきであろうというものを選択させていただき、非常に充実した発表と討論をしていただくことができました。

技術講習会は毎回本学会に併設して行われていますが、同門の先生方を中心に私の親しくさせていただいている先生方にインストラクターをお願いし、合計30名の講習生に一人一台の顕微鏡を使用して、マイクロの練習をしていただきました。Masterの先生方も気軽に立ち寄り指導していただく場面もあり、講習生には有意義な会になったものと考えています。

また、全員懇親会は本学会としてはまれな試みで、参加者数が心配されましたがマツダスタジアムのビールの売り子さんのご協力もあり、会場に入りきれないくらいの方にご参加いただきました。ここでは広島発祥といわれ、夏には世界大会も廿日市で開催されている『けん玉』大会を海外ゲストにも参加していただいて開催し大いに盛り上がりました。また、世界大会入賞経験者である本学学生達によるけん玉の妙技もご覧いただき、非常に好評でした。

最終的に参加者は約730人で、会場の雰囲気を含め盛会であったのではないかと考えております。これは、整形外科、形成外科を問わず本学会会員の先生方からの多くのご支援、ご協力、ならびに広島大学手外科グループの獅子奮迅の働きのおかげであり、私個人にとりましても非常に貴重な経験となり、ここにあらためて感謝申し上げます。

(文責：砂川 融)



広島大学マイクロサージャリーグループ

第44回日本マイクロサージャリー学会学術集会

「接近・展開・連続」

会長 多久嶋亮彦

杏林大学形成外科

■会期

2017年12月7日(木)～8日(金)

■会場

フェニックス シーガイアリゾート コンベンションセンター(宮崎)

■招待プログラム

招待講演

「History of Microsurgery in Taiwan」

David C Chuang

(Department of Plastic Surgery, Chang Gung Memorial Hospital)

特別企画

「マイクロサージャリーを支える町工場」

シンポジウム1

「神経再建術後に脳の可塑性はあるか？」

シンポジウム2

「超薄皮弁(その定義と、種類)」

シンポジウム3

「骨壊死・偽関節に対する血管柄付き骨・骨膜移植」

シンポジウム4

「種々の腹部皮弁による乳房再建:術式と適応」

パネルディスカッション1

「リンパ浮腫治療の標準化をめざして:適応,治療結果の定量評価」

パネルディスカッション2

「皮弁・切断指モニタリングのアップデート」

パネルディスカッション3

「Reconstructive ladderを超えて選択するfree flap」

パネルディスカッション4

「遊離皮弁とNPWTを併用した創治療」

ランチョンセミナー1

「デュピイトレン拘縮のup to date -手術療法VS酵素注射療法」

山本美知郎(名古屋大学個別化医療技術開発講座)

ランチョンセミナー2-1

「整形外科領域における新しい超音波装置の有用性と展望」

仲西 康顕(奈良県立医科大学臨床研修センター)

ランチョンセミナー2-2

「形成外科領域における新しい超音波装置の有用性と展望」

白石 知大(杏林大学形成外科)

ランチョンセミナー3

「再建手術の合併症を陰圧閉鎖療法で克服する！」

門田 英輝(九州大学病院形成外科)

ランチョンセミナー4-1

「人工神経を用いた神経再建について～基礎から現状まで～」

高松 聖仁(淀川キリスト教病院整形外科)

ランチョンセミナー4-2

「人工神経の現状と将来展望」

藤原 浩芳(京都府立医科大学大学院医学研究科運動器機能再生外科学)

ランチョンセミナー5

「NPWTの昨日 今日 明日

～洗浄液注入機能付きNPWTの登場で創傷治療はどうか変わっていくのか?～」

寺師 浩人(神戸大学大学院医学研究科形成外科学)

ランチョンセミナー6

「倍率可変式ルーペによる血管吻合,神経縫合」

梅川 浩平(獨協医科大学形成外科学)



学会会場入口



技術講習会



懇親会での演奏

イブニングセミナー1

「3D ビデオ顕微鏡の未来と高精細高倍率顕微鏡との比較」

濱田 裕一（福岡赤十字病院形成外科）

イブニングセミナー2

「手外科における神経の諸問題」

大井 宏之（聖隷浜松病院手外科・マイクロサージャリーセンター）

■学会印象記

第44回日本マイクロサージャリー学会学術集会ならびに技術講習会は、私の所属する杏林大学（東京）から遠く離れた九州の宮崎で開催させていただきました。私の恩師である波利井清紀東京大学名誉教授が1997年に第40回日本形成外科学会総会学術集会を宮崎のシーガイアリゾートで開催されたのですが、その時の参加会員の興奮、協力いただく企業の方の喜び様が忘れられず、この地での開催としました。学会ポスターはこの地でのわくわく感を出すために、自前（正確には波利井教授元秘書の笹川さん）で作成しました。今思えばおちゃらけたポスターですが、学会参加への誘い水になったのではないかと思います。

本学会のテーマは「接近・展開・連続」としました。この言葉はもともと、早稲田大学ラグビー部、そしてラグビー日本代表の名将、大西鐵之祐監督の言葉です。体の小さな日本ラグビー選手がいかにして外国人選手と対等に戦えるか、という命題から生み出された言葉です。相手よりも早くボールに接近し、素早く展開する。これを連続してゆけば必ずや勝利をつかむことができる、という理念です。この理念はラグビーだけでなく、臨床や研究においても応用できるものであり、私にとっては座右の銘ともいべき言葉でしたので、これをテーマとしまし

た。したがって、2017年当時、最も話題になり始めていた神経再建における脳の可塑性、超薄皮弁、遊離皮弁とNPWTを併用した創治療、などをシンポ・パネルとして組み入れました。また、一方で古くから議論されているものの、いまだに治療がむずかしい、骨壊死・偽関節に対する血管柄付き骨・骨膜移植、リンパ浮腫治療を取り入れました。さらに、再建外科医には常識となっているReconstructive ladderというアルゴリズムを変えていく新しいfree flapの時代に入ったことを宣言するセッションも設けました。いずれも、参加者には大いに刺激になったのではないかと自負しています。

本学会のもう一つの目玉は特別企画として私とメディカルU&Aの社員の皆さん（山崎修、林田鉄夫、松原亮、寺原聡の各氏）で作成した1時間ビデオです。題して「マイクロサージャリーを支える町工場」は、マイクロサージャリー手術に欠かせない、鋼製小物や針糸を作ってくれる職人さん達を現地にわれわれが出向き、取材して作成しました。マイクロサージャリーの巨人、玉井進先生と波利井清紀先生へのインタビューから始まり、いまだに手作りを中心とした小さな町工場、最新の機械を駆使してオートメーション化を図る大工場など、いろいろな企業を取材しました。社長さんからは事業参入からこれまでの苦労話を聞かせていただき、また、現場での多くの職人さん達の奮闘ぶりを撮影しました。映像をみていただいた会員からは、手術場にあるハサミや針糸がこうやって完成するのか、と好評でした。一方で、社長さんのインタビューからは、日本の製造業が抱える空洞化問題、生き残りをかけた競争、そして深刻な後継者問題など、いろいろなことを聞くことができ、それを会員の皆さんに知っていただくこともできました。ビデオの編集集中、1



学術集会終了時，スタッフと共に

秒の映像の出し入れに苦勞し，何度も腰痛に襲われましたが，作った甲斐があったと思います。

本学会が行われた2017年の前年にジャパンラグビーはワールドカップで南アフリカ代表に勝利しました。宮崎シーガイアはあの大会の前に日本代表が半年間，死にもの狂いの合宿を行った地でもあります。マイクロサージャリーは苦しい，けれど楽し

い。つくづくラグビーとマイクロサージャリーは似ていると感じつつ学会最終日を終えたことを思い出します。

最後に，学術集会を開催するにあたって，沢山の方にお世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。

(文責：多久嶋亮彦)

第45回日本マイクロサージャリー学会学術集会

「創新と融合」

会長 五谷 寛之

大阪掖済会病院整形外科・手外科外傷マイクロサージャリーセンター
/ 静岡理科大学手外科微小外科先端医工学

■会 期

2018年12月6日～7日

■テーマ

創新と融合

■会 場

大阪国際交流センター

■プログラム

マスターに聞く (1～8)

玉井進先生, 生田義和先生, 波利井清紀先生, 吉村光生先生, 土井一輝先生, 山野慶樹先生, 光嶋勲先生, 中塚貴志先生

招待講演 1

Microsurgical approach in complex traumas of the lower leg

Alexandru Valentin Georgescu (ルーマニア)

招待講演 2

Nerve transfer and reconstruction for shoulder function in brachial plexus injury

Somsak Leechavengvongs (タイ)

招待講演 3

Muscle, from microsurgeon's view point

Myong Chul Park (韓国)

招待講演 4

40 years of Microsurgery through personal path

Alain Gilbert (フランス)

招待講演 5

Technical functional and aesthetic evolutions after 30 consecutive years of jaws reconstruction with free fibula flap

G. De Santis (イタリア)

招待講演 6

CC7 combined with functioning gracilis muscle transplantation for total brachial plexus avulsion injury

Gu Li-qiang (中国)

招待講演 7

The place of bionic limbs in reconstructive microsurgery

Marko Bumbasirevic (セルビア)

教育研修講演 1

Microsurgeon への道

亀井 讓 理事長

教育研修講演 2

外科医とメディカルイラストレーション

明石 道昭

教育研修講演 3

パフォーマンスからサイエンスへ：末梢神経外科機能評価におけるピットフォール

土井 一輝

教育研修講演 4

創外固定とマイクロサージャリーの融合

松下 隆, 島田 洋一

ランチョンセミナー1

一般整形外科医が行う手の外傷治療に必要なマイクロと創外固定のテクニック

昭喜納光信

きれいな指の作り方～Wrap around flap における工夫と小技集～

松末 武雄

ランチョンセミナー2

基礎研究から見える人工神経の展望

岡田 充宏

末梢神経損傷及び神経欠損に対する神経再生誘導チューブの適応とその治療経験

村田 景一

ランチョンセミナー3

手外科医の落とし物～女性の手指の不調と対策～

平瀬 雄一

ランチョンセミナー4

手外科領域における超音波装置の重要性

田中 祥貴

形成外科領域における超音波診断の有用性

佐藤 洋

ランチョンセミナー5

顔面における末梢神経再建へのいざない～顔面神経麻痺に対する神経再建に基礎研究を加えて～



会長招宴の風景



山野慶樹名誉教授による会長招宴ご挨拶
(2024年7月ご逝去)



大阪公立大学整形外科同門の山中伸弥教授よりの
メッセージ

林 礼人

ランチョンセミナー6

デュピュイトレン拘縮に対する酵素注射療法

坪川 直人

シンポジウム1

技術革新に伴うマイクロサージャリーの適応変化

シンポジウム2

四肢重度外傷 Ortho Plastic Surgery How I Do it?

シンポジウム3

Reope による皮弁等救済時の工夫 私はいかに救済
しているか

シンポジウム4

顔面神経麻痺に対するマイクロサージャリー

シンポジウム5

長管骨欠損 仮骨延長 VS 血管柄付き骨移植

(順不同、敬称略)

■学会印象記

第45回、日本マイクロサージャリー学会学術集

会は平成30年12月7～8日に大阪国際交流センターにて行われました。前日にはマリオット都ホテルで会長招宴を行い、遠い昔、研修医時代に同僚であった山中伸弥先生にビデオメッセージを頂くこともできました。2次会は寒いなか少し移動が必要でしたが、当時日本一の高さを誇っていたアベノハルカスにて行いました。

テーマを何にするかは悩みました。あるいはあえてテーマを無しにすることも考えましたが、最終的には“**創新と融合**”をテーマにしました。「温故知新」(古きを温めて、新しきを知れば、以って師為るべし)という言葉はよく知られていますが、そこから生まれた温故**創新**という言葉はあまり知られていないかもしれません。一説によると金沢大学におられた疫学研究の第一人者であった重松逸造先生(1917～2012)の造語とのことです。古きを知って新しきを創造せよという意味合いですが、この言葉の“**創新**”にさまざまな分野が触発し合う“**融合**”が未来を作るという意味をプラスしてテーマとしました。これは形成外科と整形外科、またマイクロサージャリーと工学など他分野との融合により生まれる新しいアイデア、技術をこの学会から発信していくことを期待してのことでした。

学会では7つの招待講演、4つの教育研修講演、6つのランチョンセミナー、シンポジウムで学会の単位申請を行いました。

そして、本学会の発展に寄与されてこられた“**マスター**”の先生方から学ぶことはきわめて多く、“**マスターに聞く**”という企画を考えました。これは講演をいただくだけでなく、各々のマスターに同じテーマのセッションの座長をお願いして、各マスターの先生のお名前を冠した賞を授与するという企画です。



終了後集合写真

本学会第1回会長の玉井進先生、生田義和先生、波利井清紀先生、吉村光生先生、土井一輝先生、山野慶樹先生、光嶋勲先生、中塚貴志先生に講演、座長をお願いいたしました。（今思えば大それた企画を考えたものです。）すべてのマスターの先生が世界のマイクロサージャリーの礎を築いてこられた先生ですので、マイクロサージャリーの歴史と今後の展望を伺うことができました。しかしながら、この6年の間に初代理事長生田義和先生、恩師の山野慶樹先生におかれましてはご逝去されたのが大変残念です。謹んで哀悼の意を捧げたいと思います。

海外からも多数の招待講演者の参加があり、フランス留学中の恩師であるパリ大学のProf. Alain Gilbert、タイからは私どもの病院に研修生を定期的に派遣いただいているBPIの分野で著名であるProf. Somsak Leechavengvongs、セルビアからは2018年のヨーロッパマイクロサージャリー学会会長で、2024年国際整形外科災害外科学会会長(SICOT)をされる予定のProf. Marko Bumbasirevic、中国広州からはProf. Gu Li-qiang、2017年の国際マイクロサージャリー学会会長を務められた韓国のProf. Myong Chul Park、2019年の国際マイクロサージャリー学会会長をされた下顎再建で著名なイタリアのProf. G. De Santis、ヨーロッパ手外科学会会長をされたルーマニアのProf. A.V. Georgescuの各先生に講演をしていただくことができました。

テーマである“創新と融合”にはアジアや世界の関連学会と連携を綿密にしてマイクロサージャリーを発展させるという意味合いもありました。

当時、2020年（2021年に延期）に近畿大学の柿木良介先生が会長として第5回のアジア太平洋マイクロサージャリー学会（第47回日本マイクロサージャリー学会、服部泰典会長と同時開催がコロナ禍で1年延期され、第48回関堂充会長と併催）が開催される予定でした。

それを記念してアジア太平洋地域の若手マイクロサージャンに自分で行った手術のなかで、ベストな症例をプレゼンしていただく第5回アジア太平洋マイクロサージャリー学会日本開催記念“Memorial of 5th APFSRM : Case report award”も企画しました。さまざまな国と地域からの若手マイクロサージャンの発表を楽しんでいただき、友好を深めていただくことができました。

おかげさまで持ちましてこの学会の総演題数は招待講演者も入れますと400演題をこえ、750人の参加がありました。今思えばコロナ禍の前であり自由にプログラムを組むことができ、大変良い勉強の機会をいただきました。

最後になりますが、ご協力いただきましたすべての先生方に感謝いたします。大変ありがとうございました。

（文責：五谷 寛之）

「～マイクロ新時代～」

会長 櫻井 裕之

東京女子医科大学形成外科

■会 期

2019 年 11 月 28 日 (木)・29 日 (金)

■会 場

ハイアットリージェンシー東京

■特別プログラム

特別講演 1

清宮流マネジメントの極意「情熱，言葉の力，独自性」人を変え，組織を動かす

清宮 克幸 (公益財団法人日本ラグビーフットボール協会副会長)

特別講演 2-1

「消化器外科領域におけるロボット支援手術の現状と展望」

宇山 一朗 (藤田医科大学総合消化器外科学講座)

特別講演 2-2

「頭頸部外科領域におけるロボット支援手術の現状と展望」

橋谷 一郎 (藤田医科大学耳鼻咽喉科学教室)

■新時代シンポジウム

1. Microsurgeon の QOL - 3K から 3D -

司会：大西 清，多久嶋亮彦

4 K + 3 D カメラモニターが開く微小血管吻合の Microsurgeon の QOL

櫻庭 実

頭頸部再建外科におけるヘッドアップ・マイクロサージャリーの経験

橋川 和信

4 K 3 DORBEYE による Head up micro neurosurgery

村井 保夫

VITOM3D 体外視鏡を用いた heads up 3D microsurgery の光と影

市川 佑一

3 D ビデオ技術搭載の手術用顕微鏡システムの使用経験

北 幸紘

2. Microsurgery における Fusion Imaging

司会：上田 晃一，五谷 寛之

基調講演) マイクロサージャリーに応用可能な術中医療情報の取得および可視化技術の展開

正宗 賢

Augmented reality (AR) 技術のマイクロサージャリーへの応用

塗 隆志

AR (Augmented reality) 技術を用いた術中血管走行確認の取り組み

此枝 央人

光超音波トモグラフィを用いて大腿皮下の 3 次元血管地図フィルムを作成し，安全な薄層化皮弁手術を行う

津下 到

Microvascular Surgery における顕微鏡下 OCT の有用性と要改善点について

長西 裕樹

ICG リンパ管造影ナビゲーション下血管柄付きリンパ管移植：輸出リンパ管吻合 (ELVA) 有 vs 無

山本 匠

3. Robotic Microsurgery の近未来像

司会：山本 有平，平田 仁

近未来の機器は外科医に易しい方向に進化すべきである

黒島 永嗣

ロボット援助下手術の現状と未来に向けたトレーニング

上村 哲司

手外科・マイクロサージャリー分野での Robotic Microsurgery の現状

市原 理司

日本発 Microsurgery 専用ロボットの開発に向けて

門田 英輝

Robotic Microsurgery 近未来像

光嶋 勲

形成外科領域における Robot-Assisted Microsurgery の現状と展望

高成 啓介

4. 血流視覚化の有効活用

司会：木股 敬裕，関堂 充
緊急術中血流評価法としてのインドシアニンググリーン（ICG）蛍光法の有用性

佐々木 薫

血流視覚化による四肢剥脱創に対する治療戦略

亀井 航

皮弁再建手術における血流視覚化・数値化による評価

萩野 晶弘

食道再建のための有茎腸管の血流を ICG 蛍光法で視覚化し，スーパーチャージ法の適応判断に活用できるか

清家 志円

血管吻合部の ICG 蛍光造影法による開存確認

梅本 泰孝

拡大分割広背筋皮弁による四肢軟部組織再建：臨床研究

渡邊 敏之

■シンポジウム

1. 癌治療進歩と頭頸部再建

司会：櫻庭 実，杉本 太郎
基調講演）頭頸部癌の診断及び治療法の進歩－特に最新 10 年の変遷について

杉本 太郎

頭頸部癌治療の変化に伴う当院の頭頸部再建手術の変遷

濱畑 淳盛

がん治療の進歩に頭頸部再建はどのように対応してきたか：頭頸部再建の変化からがん治療の進歩を考える

東野 琢也

中咽頭側壁癌の治療進歩と機能再建の変遷

中川 雅裕

癌治療進歩と下咽頭・喉頭再建手術の課題

黒沢 是之

下顎再建プレートと軟部組織移植を用いた下顎再建～3 年間 29 例の短期・中期経過報告と合併症対策～

永松 将吾

頭頸部癌における癌治療の進歩と再建

寺尾 保信

頭頸部癌治療の変貌と再建手術の変容

石田 勝大

2. 次世代の人工神経

司会：服部 泰典，垣淵 正男
次世代カーボンナノチューブを用いた末梢神経再生促進と新たな人工神経開発への応用

兒玉 祥

新規神経保護再生シートの開発に向けて

田中 啓之

次世代における我々の人工神経の神経再生を促進させるコンセプト

楠原 廣久

シート状の人工神経による神経叢部の再生

鈴木 義久

骨髄間葉系幹細胞と脱細胞化同種神経マトリックスを移植した血管茎含有人工神経

貝澤 幸俊

末梢神経再建に対する iPS 細胞，ドラッグデリバリーシステムと人工神経－より良い神経再生を目指して－

高松 聖仁

次世代型人工神経開発に向けた低侵襲で効果的なシュワン細胞付加法の検討

素輪 善弘

3. 癌治療進歩と乳房再建

司会：三鍋 俊春，武井 寛幸
基調講演）乳癌治療の変遷と乳房再建－過去 30 年の移り変わり・現在の課題・新時代の展望－

武井 寛幸

術前化学療法，術後放射線照射が決定している 1 次 TRAM 再建の検討

奥村 誠子

癌治療進歩と乳房再建

谷口浩一郎

乳癌の個別化治療と自家組織によるこれからの乳房再建

佐武 利彦

多様化する乳癌治療に安定した乳房再建術を提供する

大西 文夫

がん研有明病院における 10 年間の腹部遊離皮弁による乳房再建～乳癌治療の進歩とともに～

倉元有木子

Proactive な治療へのパラダイムシフト－再建の進歩とともに

山内 英子

■パネルディスカッション

1. 末梢神経再建の breakthrough

司会：林 礼人，高松 聖仁
次世代の顔面神経麻痺再建における人工神経の 3 つの役割：神経間架橋，神経アダプター，神経再生強度の調節

渡辺 頼勝

ドナー犠牲のない末梢神経再建法の開発について

清水 史明

ラット神経根引き抜き損傷に対するレスベラトロー

ル処理自家神経を用いた神経根移植術

太田 壮一

Nerve flapによる神経バイパス：基礎と臨床

今井 洋文

顔面神経麻痺に対する translational animal model
の開発

新美 陽介

**2. 長管骨偽関節に対する再建 血管柄付き骨移植
術 vs Masquelet 法**

司会：矢島 弘嗣, 渡部 欣忍

手部長管骨偽関節・骨欠損に対する血管柄付き内上
顆移植－骨癒合から機能再建まで－

蜂須賀裕己

長管骨の骨欠損を有す難治性偽関節に対する血管柄
付骨移植：Masquelet 法との相違

酒井 和裕

当院で Masquelet 法を施行した下肢骨欠損症例の
検討

岩尾 敦彦

下肢化膿性骨髓炎に対する遊離血管柄付骨移植術

池口 良輔

外傷性長管骨欠損治療について－土田分類から見る
Masquelet 法と血管柄付き骨移植の立ち位置－

工藤 俊哉

長管骨偽関節に対する Bone Transport の有効性

野坂 光司

3. 指尖部再接着術の適応と限界

司会：大井 宏之, 平瀬 雄一

小児遠位指尖部切断再接着術の適応, 限界とその検証
今泉 督

小児の指尖部切断再接着術－手掌ポケット法との比
較も含めて－

五谷 寛之

乳幼児末節部切断に対する手術治療

鈴木 歩実

Tractional Dilatation による Zone1 指尖部切断再接
着術

長谷川健二郎

静脈吻合にこだわらない指尖部切断再接着～エキ
スパートからスタンダードへ～

柳林 聡

指尖部切断再接着術の適応と限界

伊東 大

4. リンパ浮腫治療の長期成績

司会：前川 二郎, 梶川 明義

下肢リンパ浮腫に対する外科治療の検討

山下 修二

リンパ管細静脈吻合術の蜂窩織炎治療成績

大西 文夫

LVA の長期成績と, 次なる改善点～術者バイア
スを避け, 第三者スタッフによる評価徹底する～

三原 誠

スーパーマイクロサージャリー確立後の LVA 長期
成績

関 征央

集学的治療を必要としたリンパ浮腫症例の長期経過
浜田 裕一

下肢リンパ浮腫術後 10 年以上経過観察：手術効果
に基づいたリンパ浮腫重症度分類

光嶋 勲

■学会印象記

わが国におけるマイクロサージャリーの歴史は、昭和の時代に整形外科・形成外科の一部の医師が、世界に魁け切断指再接着術、遊離皮弁移植術の成功を収めることにより始まった。そして平成の時代になっても、穿通枝皮弁、極小脈管吻合、機能再建などの分野でさまざまな技術を生み出し、世界をリードし続けてきた。令和という新時代を迎え初めての日本マイクロサージャリー学会学術集会は、まさに“マイクロ新時代”という学会テーマを掲げハイアットリージェンシー東京（新宿）において開催した。

輝かしい歴史と伝統に彩られた日本マイクロサージャリー学会は、本来の領域である整形外科、形成外科に留まらず、培った技術を消化器外科、頭頸部外科、乳腺外科など、外科系他領域にも応用することでさらに発展してきた。その間、他領域においてもロボット支援、内視鏡補助、画像解析、遺伝子治療、再生医療など、さまざまな技術開発が進んだ。そこで“マイクロ新時代”においては、他領域で開発の進んだ技術を、マイクロサージャリーに導入することに関して視点を添えてみた。

他領域へのマイクロサージャリーの応用、他領域技術のマイクロサージャリーへの導入、いずれの課題も、同じ目的をもつ者同士のコミュニケーション・意思疎通が基盤となる。そこで本学会の特別講演は、日本ラグビー協会副会長の清宮克幸氏に依頼した。清宮氏は早稲田大学、サントリー、ヤマハ発動機など日本ラグビー界のトップチームを率い、輝かしい成績を残された名監督である。新時代に向けての発展に他領域との交流が不可欠と思われる本学会にとって、清宮流の強いチーム作りの極意を語っていただくことで多くの示唆をいただけると確信して



いたからである。ちょうどその年の9月20日から11月2日、アジア初のラグビーワールドカップが日本で開催され、日本代表が初めて決勝トーナメント進出を果たすなど、国全体が熱狂した直後の講演であり、講演会場は熱気に溢れた。

特別プログラムとしては、通常分野ごとのシンポジウムに加え、新技術応用に関するシンポジウムを“新時代シンポジウム”として4つ取り上げた。無理な体勢で長時間の手術を強いられることの多いマイクロサージャリーは、3K（きつい・汚い・危険）の職場として若手医師に認識されがちである。新技術として導入された3D画像は、術者・助手が鏡頭を覗き込むつらい姿勢から解放し、負担の少ない手術姿勢を可能とする。そこで「マイクロサージャリーのQOL-3Kから3D-」というタイトルでシンポジウムを行った。手術用顕微鏡も多様化し企業開発が進んでいたため、展示会場での同機種の紹介とともに会員の興味を集めた。また、血流視覚化、画像データを統合した手術法など、他領域で開発された技術も新時代シンポジウムとして取り上げた。そして一つのHot Topicとして新時代シンポジウムで取り上げたテーマが、Robotic Microsurgeryである。他領域において先行して技術導入を実現した方々（消化器外科領域：宇山一朗先生、頭頸部外科領域：楯谷一郎先生）に特別講演を依頼し、再建・マイクロサージャリーにおいてこの技術をどのように導入するかを議論する機会となった。現在、一般社団法人日本形成外科学会においてロボティックマイクロサージャリー検討委員会が立ち上がり、実際数社の企業がその開発に参入するなど、その機運が



高まっているが、第46回日本マイクロサージャリー学会におけるこのシンポジウムは、その端緒となった企画であったと自負している。

新時代になっても、本学会が積み上げてきた技術の広まりが、新たな領域での治療成績向上につながることも確かである。がん切除後の再建法として、すでにマイクロサージャリーが不可欠な治療手段となっている分野に関しては、それぞれのがん治療自体の変遷と今後の展望を第一線でご活躍の先生方に基調講演としてご講演いただいたうえで、チーム医療としてのマイクロサージャリーの活用法に関して議論する形式を採用した。多方面からの貴重なご意見が、一つの技術集団でもある本学会におけるブレークスルーの端緒となることを期待してのことである。結局11のシンポジウム、パネルディスカッションとテーマを広げてしまったが、多くの会員の皆様から演題登録をいただき、一般演題を合わせ320演題以上の充実したプログラムを組むことができた。

20年振りの東京開催となった第46回日本マイクロサージャリー学会学術集会は、令和という新時代に、東京オリンピック開催を翌年に控え（結局学術集会直後に始まったコロナ禍の影響で1年延期となったが）変貌する首都東京において、マイクロ新時代を予感する学術集会となった。

（文責：櫻井 裕之）

「コロナ禍での学術集会開催を経験して」

会長 服部 泰典

JA 山口厚生連小郡第一総合病院整形外科

■会 期

2020年(令和2年)11月20日(金)～21日(土)

■会 場

北九州国際会議場(北九州市)

■特別プログラム

特別講演1

Pioneering the Future of Microsurgery: パフォーマンスとサイエンス

土井 一輝 (JA 山口厚生連小郡第一総合病院整形外科)

特別講演2

次なる世界戦略は? 超微血管から脈管へ: Nanomicro, nerve flap, 予防的リンパ・神経バイパスなど

光嶋 勲 (広島大学国際リンパ浮腫治療センター)

シンポジウム1

マイクロサージャリーにおける超音波エコーの有用性

シンポジウム2

重症下肢虚血に対するマイクロサージャリーの役割

シンポジウム3

マイクロサージャリーにおける New technology

シンポジウム4

リンパ浮腫の外科的治療における EBM

パネルディスカッション1

乳房再建の最前線

パネルディスカッション2

マイクロサージャリーの海外臨床留学の勧め

パネルディスカッション3

四肢重度外傷の治療戦略: Masquelet 法の適応と限界

パネルディスカッション4

四肢重度外傷の治療戦略: Fix and Flap の現状と展望

モーニングセミナー1

Perforator Flaps ~The use of Ultrasound in reconstructive surgery~

(The use of ultrasound device in the field of reconstructive microsurgery - the plastic surgeons

stethoscope)

Hong, Joon Pio (Department of Plastic Surgery, Asan Medical Center University of Ulsan, Seoul, Korea)

71MHz 超音波をつかった, 効率的・効果的な LVA
林 明辰 (亀田総合病院リンパ浮腫センター)

モーニングセミナー2

手の造形手術-手外傷を扱うマイクロサージャリーに
知って欲しいマイクロと骨軟部組織延長の融合手技-
五谷 寛之 (大阪掖済会病院手外科外傷マイクロ
サージャリーセンター)

モーニングセミナー3

リンパ外科医が考える, 一歩進んだ圧迫療法のチャ
レンジ

原 尚子 (JR 東京総合病院リンパ外科・再建
外科)

初心者でもわかる LVA のコツ ~これさえできれば
鬼に金棒! ? ~

三原 誠 (JR 東京総合病院リンパ外科・再建
外科)

ランチョンセミナー1

ネットワークを俯瞰した末梢神経損傷の治療戦略
栗本 秀 (名古屋大学手の外科)

ランチョンセミナー2

手関節尺側部痛の治療とエクオールを用いた更年期
性腱障害の対処法

森友 寿夫 (大阪行岡医療大学医療学部理学療法
学科, 大阪大学国際医工情報センター, 行岡病院
整形外科手外科センター)

ランチョンセミナー3

3D Heads-up Microsurgery ~Optical and Digital,
KINEVO900 - Hybrid Visualization System という
選択肢~

赤澤 聡 (国立がん研究センター中央病院形成
外科)

遊離組織移植における最新医療機器を用いた
Innovation ~視覚的・客観的血行評価の試みと
heads-up surgery による血管吻合の経験~



特別企画の血管吻合コンテストの様子

山本 有祐（上尾中央総合病院形成外科）

ランチョンセミナー4

光超音波がマイクロサージャリーにもたらす革新とは

齊藤 晋（京都大学大学院医学研究科形成外科学）

光超音波イメージングによる，リンパ管と静脈の3次元的描出

鈴木 悠史（慶應義塾大学医学部形成外科）

ランチョンセミナー5

リンパケアとリンパ手術の連携プレー最適化に対する試み

成島 三長（三重大学形成外科）

吉川 涼子（三重大学医学部附属病院看護部）

ランチョンセミナー6

マイクログラフトを併用した再建治療

清水 史明（大分大学医学部附属病院形成外科）

ランチョンセミナー7

難治性創傷とその Care Setting により使い分ける各種局所陰圧閉鎖療法（NPWT）

～NPWT, dNPWT, NPWTi-d, NPWTci～

寺師 浩人（神戸大学大学院医学研究科形成外科学）

アフタヌーンセミナー1

橈骨遠位端骨折の治療－ガイドラインのその先へ－

安部 幸雄（山口県済生会下関総合病院整形外科）

アフタヌーンセミナー2

“周術期感染を抑止するための知見”～予防から治療まで～

前 隆男（佐賀県医療センター好生館整形外科）

スポンサードシンポジウム

末梢神経損傷における最近の話題 ～基礎から人工神経まで～

ハンズオンセミナー

手外科・頭頸部再建における人工神経の使用について
リンパ浮腫圧迫療法ハンズオンセミナー

スーパーマイクロサージャリー血管吻合コンテスト

優勝：日本医科大学脳神経外科

準優勝：筑波大学形成外科，チーム慈大流

3位：チーム KEIO

■学会印象記

第47回日本マイクロサージャリー学会学術集会（47thJSRM）は，当初は第5回アジア太平洋マイクロサージャリー学会（5thAPFSRM）との合同学術集会（APFSRM2020：柿木良介会長）として開催される予定でした。日本マイクロサージャリー学会が主催する国際学会は，2009年に土井一輝先生と光嶋勲先生が会長として沖縄で開催された第5回世界マイクロサージャリー学会以来であり，2020年は日本マイクロサージャリー学会にとっても記念すべき年になるはずでした。日本中に東京オリンピックの余韻が残るなか，海外からの参加者も含めて2,000人規模の国際学会が晩秋の小倉で盛大に開催される予定でした。私は，47thJSRM会長，APFSRM2020準備委員会事務局長，5thAPFSRMプログラム委員会委員長として，2017年から協賛金獲得，プログラム作成などの準備を開始しました。いろいろな苦労はありましたが，2019年末までは順調に合同学術集会の開催準備が進んでいたと思います。特に，海外のinvited speakerへの連絡には大変苦労しましたが，約100名の海外のspeakerに口演の内諾をいただくことができました。47thJSRMのプログラムについては，日本マイクロサージャリー学会初の試みである血管吻合コンテス

トやリンパ浮腫セミナーの準備も着々と進行して
きました。企業などからの協賛金も十分に獲得でき
ており、潤沢な資金で学会が開催できる予定でした。
懇親会などの催しは、リーガロイヤルホテル小倉で
の会長招宴、小倉城天守閣での特別懇親会、北九州
スタジアムのVIPルーム貸し切りの全員懇親会な
どを予定していました。

しかし、2020年初頭から新型コロナウイルス感
染のニュースを耳にすることが多くなりました。そ
して、あっという間に学会開催などとても許され
ない社会の雰囲気になってきました。春の日本手外
科学会や日本整形外科学会もWeb開催となり、連
休前には緊急事態宣言も発出されました。日本マ
イクロサージャリー学会でも5月の連休明けに臨時理事
会を開催し、APFSRM2020の開催方法について検
討しました。この結果、5thAPFSRMは2021年に
延期し、47thJSRMは予定通りに行くが新型コロナ
ウイルスの感染状況を確認して開催方法を検討する
ことになりました。5thAPFSRMの延期に関しては、
2022年に6thAPFSRMがインドで開催することに
決定していたので、インド側との交渉やAPFSRM
council memberの承認も必要になりました。これ
に関しては、APFSRMのSecretary Generalであ
る土井一輝先生にすべてお願いいたしました。5月
末には海外との折衝が完了し、5thAPFSRMの2021
年への延期が正式に決まりました。

これ以後は、新型コロナ感染者数の動向にビクビ
クしながら、47thJSRMの準備に専念しました。こ
のような状況で果たして演題が集まるのか大変不安
ではありましたが、7月14日の締め切りには262
題もの演題が集まり充実したプログラムを作成する
ことができました。特別企画の血管吻合コンテスト
にも定員を大きく上回る11チームの応募がありま
した。開催方法は現地参加、オンライン参加とオン
デマンド配信も行うハイブリッド形式としました。
幸いなことに、11月半ばの福岡県の感染拡大の状
況が落ち着いていたこともあり、予定されていたす
べてのプログラムを北九州国際会議場で行うことが
できました。学会参加登録者は664名で例年レベ
ルの数であり、このうち現地への参加は382名で
した。コロナ禍の状況のなかでは予想をはるかにこ
える多くの会員に現地での学会に参加していただき
、特別企画の血管吻合コンテスト、リンパ浮腫セ
ミナーも予想以上に盛況でした。

しかし、例年とは大きく異なった学会運営が必要
でした。ソーシャルディスタンスを保ち、3密の予
防に配慮した座席や展示会場のレイアウトにしまし



幻となった第5回アジア太平洋マイクロサージャリー学
会と第47回日本マイクロサージャリー学会学術集会の
合同学術集会（APFSRM2020）のポスター

た。密になる環境を避けるために、例年よりも多く
の会場を使用して、参加者が分散するようにしまし
た。飲食を伴い参加者が集中するランチョンセミ
ナーでは、事前参加登録を行い入場者数に制限を設
けました。学会参加登録は、当日登録の混雑を避け
るために、ホームページからの完全事前参加登録制
としました。また、懇親会など、多くの人が会食す
る催しは開催しませんでした。幸いなことに、私が
知る限りでは学会参加者から感染者は報告されてお
らず、感染対策も成功したと思われま。学会の収
支も大きな黒字になりましたが、コロナ禍での学会
開催には予想以上に経費がかかりました。オンライ
ンでの発表を行うためには、会場の各部屋にイン
ターネットの配線作業を行う必要がありました。事
前参加登録に必要なシステムの導入も高額で、感染
対策に必要なシールドや体温計の設置などの費用も
決して小さくありませんでした。しかし、このなか
でもオンデマンド配信に必要な録画機材や人件費、
システム構築に予想をはるかにこえる高額な費用が
かかりました。

このように、47thJSRMは日本マイクロサージャ
リー学会初のパンデミック下での開催となりました
が、何とか実りある学術集会を開催できたと思いま
す。特殊な状況のなかでの開催にあたり例年にはな
い多くの苦労もありましたが、大切なことを知るこ
とができました。英語の“face to face”という言葉



閉会式での運営スタッフの集合写真

は、文字通り、相手の顔をみながらコミュニケーションするという意味です。しかし、これは、最近のZoomなどのWeb会議に代表されるようにモニター画面越しにも可能です。これに対して“in person”というのは、直に相手に会ってコミュニケーションするという意味が含まれています。究極の職人技であるマイクロサージャリーには“in person”でしか伝えられない極意があります。WHOによる新型コロナウイルス感染の緊急事態の終了宣言から1年以上経過し、少しずつコロナ禍での苦労の記憶が薄れつつあります。しかし、モニター画面越しでの“face to face”ではなく、学会場において“in person”す

なわち、“直接”会員の皆様とお会いできることが、どれほど幸せなことであるのか忘れてはならないと思います。

本学術集会の開催にご協力をいただいたすべての方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。特に感染拡大の危険のなか、現地参加していただいた会員の皆様方、また2021年に延期になった5thAPFSRMとの合同学術集会の開催を快くお引き受けくださった第48回日本マイクロサージャリー学会学術集会会長の関堂充先生に厚く御礼を申し上げます。

(文責：服部 泰典)

「俯瞰－OVERVIEW」

会長 関堂 充

筑波大学医学医療系形成外科

■会 期

2021年12月3日～4日

第5回アジア太平洋マイクロサージャリー学会（12月1日～3日）と合同開催

■会 場

つくば国際会議場

■特別プログラム

特別講演 1

装着型サイボーグ「HAL」の医療機器化・世界展開～ミクロとマクロを繋ぐサイバニクス医療イノベーション～

山海 嘉之（筑波大学 システム情報系教授／CYBERDYNE 株式会社 代表取締役社長／CEO）

特別講演 2

浮世絵に描かれた筑波山

渡邊 晃（太田記念美術館上席学芸員）

教育講演

リンパ浮腫診療におけるマイクロサージャリー－手技の成功と治療結果の解離－

前川 二郎（横浜市立大学医学部形成外科学）

■特別企画

シンポジウム 1

再建後の追加手術と治療－整容と機能をめざした final touch

シンポジウム 2

マイクロサージャリーにおける新技術（3D・機器など）

シンポジウム 3

切断指（肢）の機能再建－どこにゴールを設定するか（手指）

シンポジウム 4

切断指（肢）の機能再建－どこにゴールを設定するか（四肢・後療法など）

シンポジウム 5

術前・術後療法を含めたリンパ浮腫の治療 1

シンポジウム 6

術前・術後療法を含めたリンパ浮腫の治療 2

シンポジウム 7

マイクロサージャリーを用いた頭頸部再建後の長期経過－下顎再建

シンポジウム 8

マイクロサージャリーを用いた 頭頸部再建後の長期経過－口腔・頸部

パネルディスカッション 1

四肢重度外傷における吻合血管の選択

パネルディスカッション 2

人工神経を用いた再建の現状

パネルディスカッション 3

採取部合併症を少なくするための乳房再建の適応と選択

パネルディスカッション 4

マイクロサージャリー術後合併症予防への工夫・対応

パネルディスカッション 5

マイクロサージャリー術後合併症予防へのモニタリング

パネルディスカッション 6

重症下肢虚血に対するマイクロサージャリーの適応と長期結果

パネルディスカッション 7

マイクロサージャリーにおける経済・QOL 評価

ビデオセッション

マイクロサージャリーにおける私の工夫

アフタヌーンセミナー 2

マイクログラフトを用いた臨床と展望

檜村 勉（日本大学医学部形成外科学）

出端 祥成（高井病院整形外科）

アフタヌーンセミナー 3

人工神経を用いた再建の現状

田中 啓之（大阪大学運動器スポーツ医科学）

吉田 史郎（久留米大学整形外科）

渡辺 頼勝（東京警察病院形成外科）

松田 健（新潟大学医学部形成外科）

ランチョンセミナー 3

電気刺激による神経ネットワークへの治療介入

栗本 秀（名古屋大学手の外科）

ランチョンセミナー 4

形成外科領域・四肢外傷再建における局所陰圧閉鎖療法の役割と最新情報

相原有希子 (筑波大学医学医療系形成外科)
前川 尚宜 (奈良県立医科大学救急医学講座)

ランチョンセミナー5

Microscopic Vascular Structure Visualization Using Photoacoustic Imaging Technology and Its Clinical Application

Susumu Saito (京都大学形成外科)
Yushi Suzuki (慶應義塾大学形成外科)

ランチョンセミナー6

再生医療とマイクロサージャリーの融合

富田 興一 (大阪大学形成外科)
素輪 善弘 (京都府立大学形成外科)

ランチョンセミナー 7 (リンパ浮腫セミナー)

原 尚子 (JR 東京総合病院リンパ外科・再建外科)
中川路 桂 (東京医療専門学校 / ベテル南新宿診療所)

ランチョンセミナー 8

PIP 関節症の治療戦略：不定愁訴からブシャール結節まで

平瀬 雄一 (四谷メディカルキューブ手の外科・マイクロサージャリーセンター)

ランチョンセミナー 9

われわれが脂肪注入に向き合うワケ～脂肪採取・注入キット macrofill の経験報告～

棚倉 健太 (三井記念病院形成外科・再建外科)
武藤 真由 (横浜市立大学附属市民総合医療センター形成外科)

ランチョンセミナー 10

血管新生に対する脂肪由来幹細胞の効果のご紹介
森 弘樹 (東京医科歯科大学形成・再建外科学分野)

佐久間理吏 (獨協医科大学病院心臓・血管内科 / 循環器内科)

長谷川卓爾 (株式会社バイオマスター)

人工神経ハンズオンセミナー

手外科・頭頸部再建における人工神経の使用について

第2回スーパーマイクロサージャリー血管吻合コンテスト (12月2～4日)

予選 (12月2日)
本選 (12月4日)



図1 学会ポスター

マイクロサージャリー技術講習会 (12月1日)

リンパ浮腫セミナー (12月4日)

■学会印象記

第48回大会は前年に引き続きコロナ禍のなかでの開催となりました。第47回大会にて行われるはずであった第5回アジア太平洋マイクロサージャリー学会 The 5th Congress of Asian Pacific Federation of Societies for Reconstructive Microsurgery (5thAPFSRM) が延期され共同で開催することが1年ほど前に決まり、前回会長・5thAPFSRM 事務局長の服部泰典先生、5thAPFSRM 会長の柿木良介先生と準備を進めてきました。中山凱夫前教授が1987年に第14回を開催されて以来34年振りの当教室で主催の全国学会となり、両先生には大変助けていただきました。前回つくば開催時には、私はまだ学生であり翌年研修医1年目ではじめて参加した全国学会が奇しくも熊本で開催された第15回の本学会でした。現在重鎮やレジェンドとなった諸先生の若い時代の熱気あふれる発表・質疑に感銘を受けたことを覚えています。今回の学会テーマは自分の部屋に飾ってあった筑波山が遠景に使われている歌川広重の「名所江戸百景 深川洲崎十萬坪」より着想を得た「俯瞰 - overview」としました (図1)。コロナ禍で1年延期された同年8月の東京オリンピックが無観客となり、また各病院の会食に対する規制が厳しいところもまだまだあったため、会長紹宴や会員懇親会を行うことができない



図2 特別講演1
右より座長の土井一輝先生，講師の山海嘉之先生，私



図3 スーパーマイクロサージャリー血管吻合コンテスト表彰式



図4 学会終了後主催者写真（この時だけマスクをはずしました）

かったのは大変残念でした。また外国人講演も来日制限の解除が間近まではっきりせず招待することができませんでした。その代わりに筑波大学が誇る装着型ロボット HAL を開発された山海嘉之先生に特別講演をお願い（図2）また文化的講演として太田記念美術館の渡邊晃先生に浮世絵の細かなテクニックについて解説いただき参加者に好評でした。現地開催と web を併用しての開催となりましたが、感染が落ち着いていた時期で比較的多くの先生に参加いただきました。参加者には久しぶりに多くの先生と現地で交流できたとの言葉を頂きました。3日間の会期で5th APFSRM と共同で詰め込んだため第1会場～第6会場のほか、ハンズオン、コンテスト会場が必要になりました。コロナ禍にもかかわらず、

APFSRM と共同ということで出展が46 と非常に多く、日本酒の試飲コーナーなどもあり参加者にも楽しんでいただけたのではと思います。

会期が5th APFSRM とあわせて4日間あったため、前年初めて開催されて好評であった手羽先血管を用いたスーパーマイクロサージャリー血管吻合コンテストをエキスパートのために、また当学会の伝統であるマイクロサージャリー技術講習会を手羽元を用いて初心者のために開催することが出来ました。講師・運営はすべて当大学の医局および関連とし、両方行う負担は大きかったです。教室員にも刺激となり成長を感じることができたのは収穫でした。講習会は参加者に好評で、コンテストも中継で多くの参加者に見ていただき盛り上がりました（図3）。

プログラムでは 5thAPFSRM と重ならず，出来るだけ形成・整形の先生が両方参加出来るように新技術のセッションやマイクロサージャリーにおける経済・QOL 評価，超高周波超音波ハンズオンセミナーなど新しい試みも行い，今後の発展につなげることができればと思います。

コロナ禍のなかの開催でしたが web での発表，

参加も入れると JSRM 演題数が 232 題，5thAPFSRM が 271 題，参加者は最終的には参加登録 892，現地参加 656 と海外からの現地参加がなかったコロナ禍にしては多くご参加いただくことができました。

最後に本学会に多大なご協力をいただきました諸先生，各企業，事務局の皆様がこの場をお借りして感謝いたします。

(文責：関堂 充)

「多様性」

会長 大井 宏之

聖隷浜松病院手外科・マイクロサージャリーセンター

■会 期

2022年12月1日（木）～2日（金）

■会 場

アクトシティ浜松

■特別プログラム

特別講演

「歴史家がみた外科手技開発の名医」

磯田 道史（国際日本文化研究センター教授）

招待講演

「がん患者のための血中細胞の画像認識」

寺林 賢司（富山大学学術研究部工学系准教授）

「レーザーを用いたものづくりの現場からお伝えしたい光のツカイカタ」

沖原伸一郎（光産業創成大学院大学光産業創成研究科光産業創成専攻光加工・プロセス分野准教授）

「電子顕微鏡観察下で動作可能なマイクロマニピュレータの開発と顕微解剖への応用」

岩田 太（静岡大学大学院光医工学研究科教授）

教育研修講演

「メディカルイラストレーション – 見せる論文から、魅せる論文へ –」

小野 真平（日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容形成）

遠州シンポジウム

「ICG 蛍光造影法を用いた様々な試み」

シンポジウム

「Robotic Microsurgery と新しい血管吻合器の開発」

「教わったこと、伝えたいこと」

「マイクロサージャリーにおける治療機器・診断機器の最前線」

「血管・リンパ管吻合，神経縫合以外の顕微鏡を用いた治療」

「神経修復の多様性」

「Orthoplastic Microsurgery・Aesthetic Microsurgery」

「マイクロサージャリーにおけるキャリアアップと教育」

ビデオセッション

「私が得意とする皮弁・その極意」

「Super Microsurgery から Nano Microsurgery」

パネルディスカッション

「機能回復を目指した手指再接合術とリハビリテーションのノウハウ」

「安全な遊離皮弁のための手術法，抗凝固療法，血行チェック法」

「乳房再建：各皮弁の血管解剖」

「乳房再建：自家組織移植，人工物，脂肪注入の組み合わせの工夫」

「手舟状骨偽関節に血管柄付骨移植は必要か」

「重度下肢虚血（CLI）に対する救済法（血行再建・遊離組織移植術）」

「リンパ浮腫：各種イメージングを用いた適切なリンパ管の選択法」

「指尖指腹部欠損の皮弁の選択・その皮弁のどこがいいのか」

「機能面から見た上肢組織欠損の再建法」

「Frozen Neck 症例におけるマイクロサージャリーの工夫」

遠州セミナー

「マイクロの世界を超高周波超音波可視化する」

深澤 克康（関東労災病院整形外科）

辛川 領（がん研有明病院形成外科）

「マイクログラフトを用いた臨床と応用」

森本 尚樹（京都大学形成外科）

出端 祥成（高井病院整形外科）

「橈骨遠位端関節内骨折に対する全方向可変掌側ロックプレート – 新たなプレートへのカウントダウン –」

森谷 浩治（新潟手の外科研究所）

スポンサードシンポジウム

「末梢神経治療の新たな取り組み」

岩尾 敦彦（長崎大学病院形成外科）

素輪 義弘（京都大学形成外科）

橋川 和信（名古屋大学形成外科）



超高周波超音波ハンズオンセミナー
～術前マーキング～

ランチオンセミナー

「リンパ浮腫セミナー」

塗 隆志 (大阪医科大学形成外科学)
三原 誠 (JR 東京総合病院リンパ外科・再建外科)

「末梢神経保護剤の歴史と今後の展望」

田中 啓之 (大阪大学整形外科)

「形成外科における高精細・高倍率 ICG 蛍光画像の有用性」

棚倉 健太 (三井記念病院形成外科)
辛川 領 (がん研有明病院形成外科)

「Menopausal hand に対する新たな治療戦略－エクオールの特典臨床研究・実臨床での使用経験から－」

下江 隆司 (和歌山県立医科大学整形外科)

「ホリスティックアプローチによる末梢神経外科の考察」

平田 仁 (名古屋大学医学部個別化医療技術開発講座)

「光超音波イメージングによる診療の未来：最新情報と展望」

齊藤 晋 (京都大学形成外科)
鈴木 悠史 (慶應義塾大学形成外科)

「Cervical Lymph Node Flaps: Vascular Anatomy and Clinical Application」

Bien Keem Tan (Department of Plastic Surgery, Singapore General Hospital)

ハンズオンセミナー

「超高周波超音波ハンズオンセミナー ～術前マーキング～」

第3回手の造形手術ワークショップ



技術講習会

「指骨延長，拘縮解離ベーシックマスター」(セミナー・ハンズオン)

■技術講習

12月1日・2日 (午前・午後)

受講者：20名，講師：25名

■おもてなしひろば

12月1日 (午後)・2日 (午前・午後)，出店：8店舗

■学会印象記

第49回日本マイクロサージャリー学会学術集会は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも現地開催のみに踏み切りました。第47回と第48回はハイブリッド開催でしたが、感染状況の改善に伴い、3年ぶりに現地開催のみとしました。コロナの影響で参加人数が懸念されましたが、約700人の皆様にご参加いただき、盛況のうちに幕を閉じることができました。今回の学会は、歴史ある日本マイクロサージャリー学会において、静岡県で初めて開催されるという記念すべきものでした。そのため、浜松の魅力を最大限に引き出す学会を企画しました。

今回の学会テーマは「多様性」とし、新型コロナウイルスの感染拡大のなかでも医療や社会が独自性を持って変革していることを反映しました。コロナ禍で得られた新しい技術や経験を共有し、対面での活発な議論を通じて、新たな知見やアイデアを共有する場となりました。

学会のテーマである「多様性」を視覚的に表現するため、ポスターなどのデザインは、浜松市内の静岡県立文化芸術大学の卒業生と共同で制作いたしました。シンプルなデザインながらも「糸」を共通のテーマとし、伝統ある浜松の織物業、ピアノなどの楽器の弦、情熱的な浜松まつりでの大凧をつなぐ糸、そしてマイクロサージャリーに共通する「糸」の概



おもてなしひろば



統一したデザインの大会プログラムおよび手ぬぐい



磯田道史先生（左）と大井宏之会長（右）

念を取り入れました。糸に絵の具を染み込ませ、それを弾いて描写するストリングスアートの技法を用い、色は動脈・静脈・神経・リンパ管を表す赤、青、黄の色を取り入れました。線はそれぞれが同じ方向を向きながらも、1本1本が異なる太さや形状を持つことで多様性を表現しました。

本学会は医学だけでなく他分野との交流も深めることを目指し、特別講演や招待講演には浜松に縁のある医師以外の方々をお招きしました。特別講演には、学会を主催する際にぜひお招きしたいと考えていた歴史学者の磯田道史先生をお迎えしました。磯田先生とは、以前浜松市内の大学で教鞭をとられていた際に知り合ったご縁があり、本学会に華を添えてくださいました。また、工学部の3名の先生方からは、最新の技術に関する興味深いご講演をいただきました。そのほかにもシンポジウム、パネルディスカッション、各種セミナーなど、多様性に富んだ企画を多数用意したため、やや盛りだくさんでスケ

ジュールがタイトになってしまいました。

当初はコロナ禍のため海外からの講演者の来日を考えていませんでしたが、翌年にWSRMを主催するシンガポールのDr. BK Tanが来日し、講演をしていただきました。

技術講習会は学会期間中の2日間にわたり、20名の先生方に技術指導を行いました。なお顕微鏡の台数の関係で、これ以上の人数を受け入れることができませんでした。講師陣は当センターで高度なトレーニングを受けた医師を中心に25名の先生方に依頼し、参加者一人ひとりに丁寧な指導を行いました。また超高周波超音波や指骨延長・拘縮解離のベーシックマスターのハンズオンセミナーも開催され、参加者のスキルアップを支援しました。

コロナ禍前の本学会では、会期中に全員懇親会が開催されていましたが、今回は感染症対策を考慮し、会場のワンフロアを「おもてなしひろば」として開放し、浜松および近隣の各種店舗に出店していただ

きました。これにより、参加者には浜松を楽しみながら交流の場として利用していただくことができました。また、1950年頃の浜松が繊維産業や染色加工で知られていたことにちなんで、ポスターと同じデザインの手ぬぐい（浜松注染）を作製し、参加者に配布しました。

なお、広島大学四肢外傷再建学の林悠太先生が、

第49回の学会について「学会を聞く」として整形外科誌に掲載されました（整形外科 74, 2023.1031-1034）。多くの方々のご協力により、コロナ禍でも現地開催のみで実施できたことに、この場を借りて感謝の意を表したいと思います。

（文責：大井 宏之）

第 50 回日本マイクロサージャリー学会 50 周年記念学術集会

「新しいステージの幕開け」

会長 亀井 譲

名古屋大学形成外科

■会 期

2023 年 12 月 7 日（木）～8 日（金）

■会 場

名古屋国際会議場

■特別プログラム

特別講演

「医師の働き方改革の今とこれから ～新興感染症対策，病院の外来機能，地域医療構想のバージョンアップ等と関連して～」

松本 吉郎（日本医師会会長）

招待講演

「Recent Advances in Microsurgery」

Hak Chang (Head Professor and chairman, Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Seoul National University College of Medicine)

50 周年記念招待講演

「Microsurgical Toe-toe-Hand Transfers in Children after Trauma and for Congenital Hand Differences」

Neil F. Jones (Distinguished Professor of Orthopedic Surgery, Distinguished Professor of Plastic and Reconstructive Surgery, and Emeritus Chief of Hand Surgery, University of California, Los Angeles)



Jones 先生による 50 周年記念招待講演
(Web 講演になりました)

History 特別講演

司会：柴田 実，光嶋 勲

「私とマイクロサージャリー」

別府 諸兄（聖マリアンナ医科大学名誉教授）

「黎明期のマイクロサージャリー –臨床と基礎–」

中西 秀樹（徳島大学名誉教授）

「小児に対する再建手術から学んだこと」

藤 哲（弘前大学名誉教授）

「マイクロサージャリー創生期の思い出」

鳥居 修平（名古屋大学名誉教授）

「外国マイクロサージャリー学会との交流」

土井 一輝（小郡第一総合病院整形外科総括部長）

History 座談会

司会：櫻井 裕之，五谷 寛之

玉井 進（第 1 回会長）

波利井清紀（第 6 回会長）

吉村 光生（第 11 回会長）

新富 芳尚（第 22 回会長）

野崎 幹弘（第 24 回会長）

Future シンポジウム 1

「末梢神経外科・リンパ外科」

座長：柿木 良介，梶川 明義



History 座談会



レジェンドの先生方の集い

Future シンポジウム 2

「基礎研究・医療機器開発」

座長：岡崎 睦, 平田 仁

Future シンポジウム 3

「再接着」

座長：田中 克己, 森谷 浩治

Future シンポジウム 4

「再建外科・遊離組織移植」

座長：朝戸 裕貴, 河村 健二

Future シンポジウム 5

「新技術」

座長：清川 兼輔, 山本美知郎

ビデオパネル 1

「重症下肢虚血治療に対するマイクロサージャリー」

座長：橋本 一郎

ビデオパネル 2

「重症下肢虚血治療に対する骨・軟部組織再建」

座長：池口 良輔

ビデオパネル 3

「重症リンパ浮腫に対する外科的治療」

座長：古川 洋志

ビデオパネル 4

「四肢悪性腫瘍におけるマイクロサージャリーを用いた患肢温存手術」

座長：岡本 秀貴

ビデオパネル 5

「術前シミュレーションを利用した遊離皮弁による再建」

座長：上田 晃一

ビデオパネル 6

「神経再建法 / 縫合法のベストプラクティス」

座長：多田 薫

ビデオパネル 7

「骨髄炎に対する外科的治療」

座長：村田 景一

ビデオパネル 8

「母指再建の実際」

座長：五谷 寛之

ビデオパネル 9

「ロボティック・マイクロサージャリー研究の最前線」

座長：橋川 和信

ビデオパネル 10

「遊離皮弁移植における移植床血管の準備 1」

座長：関堂 充

ビデオパネル 11

「遊離皮弁移植における移植床血管の準備 2」

座長：兵藤伊久夫

■学会印象記

日本マイクロサージャリー学会は、1974年に研究会として玉井進先生が開催されて50年を迎えました。記念すべき第50回の学術集會を名古屋で開催させていただきましたこと、名古屋大学形成外科教室および同門会一同、大変光榮に存じます。切断指再接着や遊離皮弁移植の先駆けとして世界をリードしてきた先達による50年の輝かしい歴史を振り返り、またこれからの新たな未来に期待を込めて「新



50周年記念祝賀懇親会にて



50周年記念祝賀会にて



50周年記念式典

しい時代への幕開け」とテーマを掲げました。特別講演では日本医師会会長の松本吉郎先生をお招きして「医師の働き方改革の今とこれから ～新興感染症対策、病院の外来機能、地域医療構想のバージョンアップ等と関連して～」のご講演をいただきました。シンポジウムでは次世代の microsurgeon に5つの Future シンポジウムとして、つぎの50年に向けての考えを語っていただきました。一般演題も332題登録があり、参加者も700人をこえる盛大な学術集会となりました。会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

■ 50周年記念式典

50周年記念式典では、玉井先生の司会により、Web講演となりましたが、Neil Ford Jones 先生に

「Microsurgical Toe-toe-Hand Transfers in Children after Trauma and for Congenital Hand Differences」のご講演をいただきました。また、玉井先生、波利井先生をはじめとした整形外科、形成外科それぞれ5人のレジェンドの先生方にご登壇いただき、講演と座談会に参加していただきました。これまでの歴史やご苦労話を伺い、会員一同とても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。新たなる50年に向けて日本マイクロサージャリー学会のさらなる発展を心から祈っております。50周年記念式典および50回学術集会を成功裏に終えることができましたのも、ご支援をいただきました理事の先生方をはじめ、皆様のおかげとっております。ありがとうございました。

(文責：亀井 譲)